

学校名	本宮市立本宮第一中学校	校長名	安齋 次弥		
住所	本宮市本宮字懸鉄15	児童生徒数	382	学級数	13
TEL	0243-33-2249	ホームページアドレス	なし		

学年体制の強化と数学・理科における少人数指導

1 少人数指導の計画等

(1) 学年体制の強化

学力向上の基盤は、望ましい学級集団づくりであり、学級経営が重要である。1学年では少人数指導を選択し、3学級において1学級あたり担任1名と副担任1名の2名体制とする。小学校から中学校へのスムーズな接続と望ましい学級集団づくりを学年体制で強化する。

(2) 1学年の数学と2・3学年の理科における学習形態の工夫

- ① 1学年の数学において、ティーム・ティーチングや習熟度別学習を導入し、単元の目標や内容あるいは生徒の実態によって、学習集団を弾力的に編成する。特に、つまずきが予想される入門期の学習内容は、2・3年生の基礎となるため、生徒の学力差や意欲の差など個に応じて、きめ細かな指導・援助で対応する。
- ② 2・3学年の理科において、ティーム・ティーチングを導入し、教材研究や授業準備等を協力して行い、互いの指導力の向上を図ったり、時間を有効に活用したりする。また、実験や実習で、安全面に配慮し、きめ細かな指導・援助で対応する。

2 実践の概要

(1) 1学年の学級編制

本校では、少人数学級（30人学級）4学級ではなく、少人数指導3学級で学級編制した。少人数指導により、3学級にそれぞれ担任1名、副担任1名を配置し2名体制で、個に応じた指導や学級集団に対する充実した指導を通して、学習集団の基盤づくりを行った。

(2) 1学年の数学と2・3学年の理科における学習形態の工夫

① 1学年数学科「正負の数」の実践例

中学校の数学で、最初につまづくのが、負の数の扱いである。そこで、単元の中で、計算の習熟を図る目的で、次のような学習形態で対応した。T1が、生徒に、一斉指導の中で、内容別、難易度別に問題のワークシートを準備し、決められた順序で問題を行うように指示した。2人の教師（T1とT2）が習熟の程度や意欲の差に応じて個別に対応した。

② 2学年理科「化学変化と原子・分子」の実践例

この単元は、ガスバーナーや電源装置等の基礎操作ができるという前提の実験が多くある。そこで、指導形態としては、「実験技能を確実に定着させるT・T」として、水の電気分解の実験（水酸化ナトリウム水溶液という強アルカリ性の水溶液と電源装置を使用するので、安全面に注意して指導、援助を行う。）や化合の実験（ガスバーナーを使うことと、硫化水素が発生するため、安全面に注意して指導、助言を行う。）などを2人の教師（T1とT2）で行った。



3 実践の成果と課題

(1) 実践の成果

- 数学の指導では、習熟の程度の差など個人差に応じたきめ細かな指導を行い、定期テストの結果からはつまずきが少なくなり、生徒への学習意欲のアンケートからは前向きな回答が多かった。
- 理科の指導では、より安全に実験を行わせることができ、実験の技能に不安のある生徒も安心して活動ができていた。また、実験の準備などもこまめにでき、よい環境で実験に取り組ませることができた。生徒への学習意欲のアンケートからは理科好きの回答が多かった。
- 不適応生徒への組織的・継続的な学習支援を行った結果、不適応生徒が減少し、「Q-U」の結果において、すべての学級の学級生活意欲プロフィールの全項目で全国平均を上回っていた。

(2) 実践の課題

- 単元の目標や学習内容、生徒の実態に応じて、教育効果を考えた上で学習形態をかえなければならない。そのためには教材分析、生徒理解に努め、教師間の綿密な打合せが必要である。